

# 影響、頻度を用いた津波対策の整理

2019年9月26日

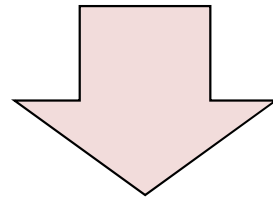
**TEPCO**

---

東京電力ホールディングス株式会社

## ■ ご質問内容 (2019/2/28)

地震・津波対策の現状整理について、マップはわかりやすくまとまっているが、頻度と影響がまざっている。難しいとは思いますがこれを定量化して評価・分析し、説明して欲しい。



## ■ リスク源に対して影響、頻度で整理

- 影響：公衆への被ばく影響（気体放出の場合）、放出量（被ばく影響での評価が困難な液体、固体流出の場合）で評価することが望ましいが、本評価ではCs137換算のインベントリを用いる。
- 頻度：各リスク源が影響を受ける津波高さを評価し、その高さを超過する津波の発生頻度を用いる。

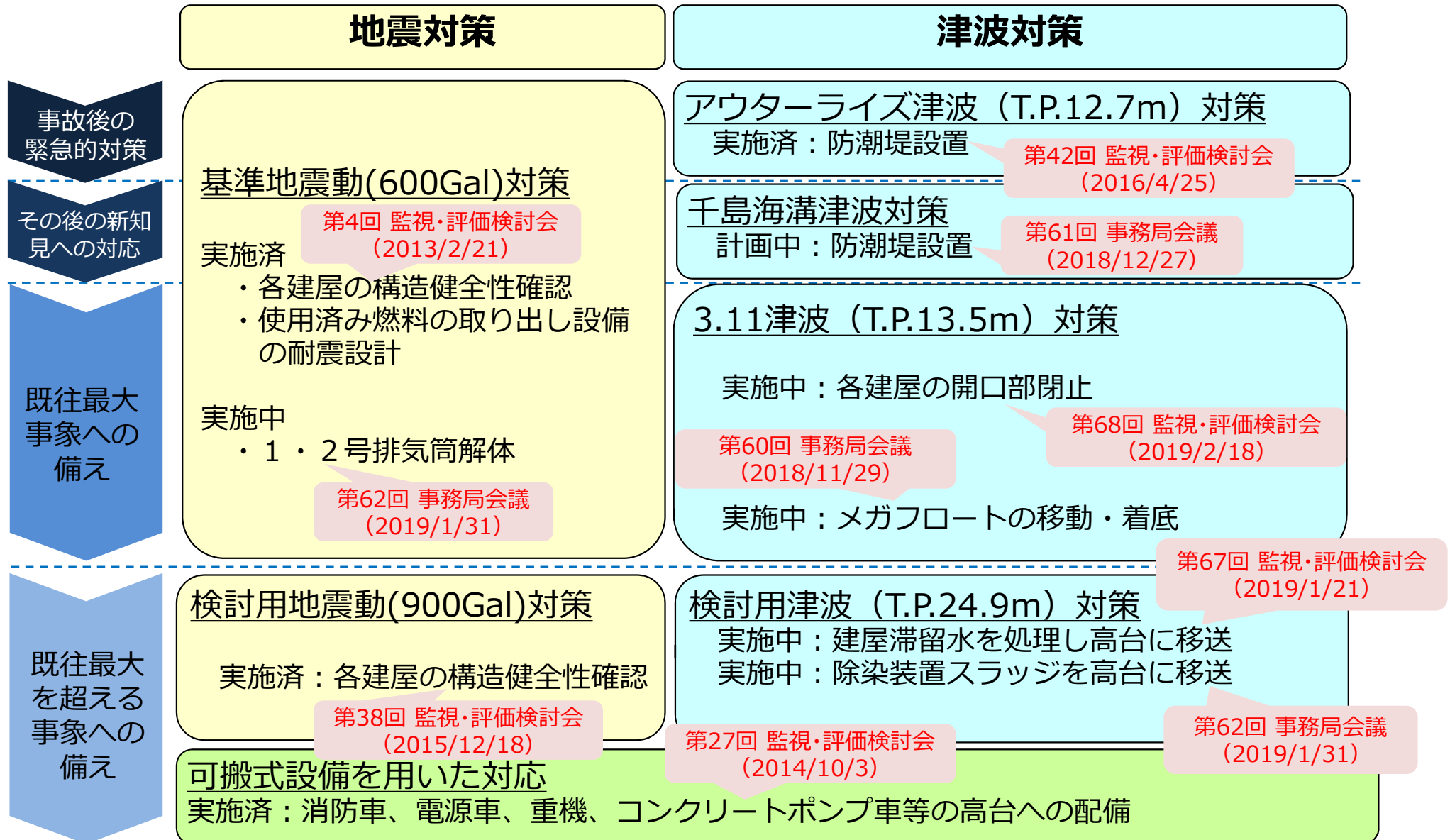
## ■ 影響を受ける度合いが相対的に異なることから、液体（スラッジ含む）、固体に分類して評価

# (参考) 地震・津波対策の現状整理

廃炉・汚染水対策チーム会合事務局  
会議 (2019/2/28) より抜粋

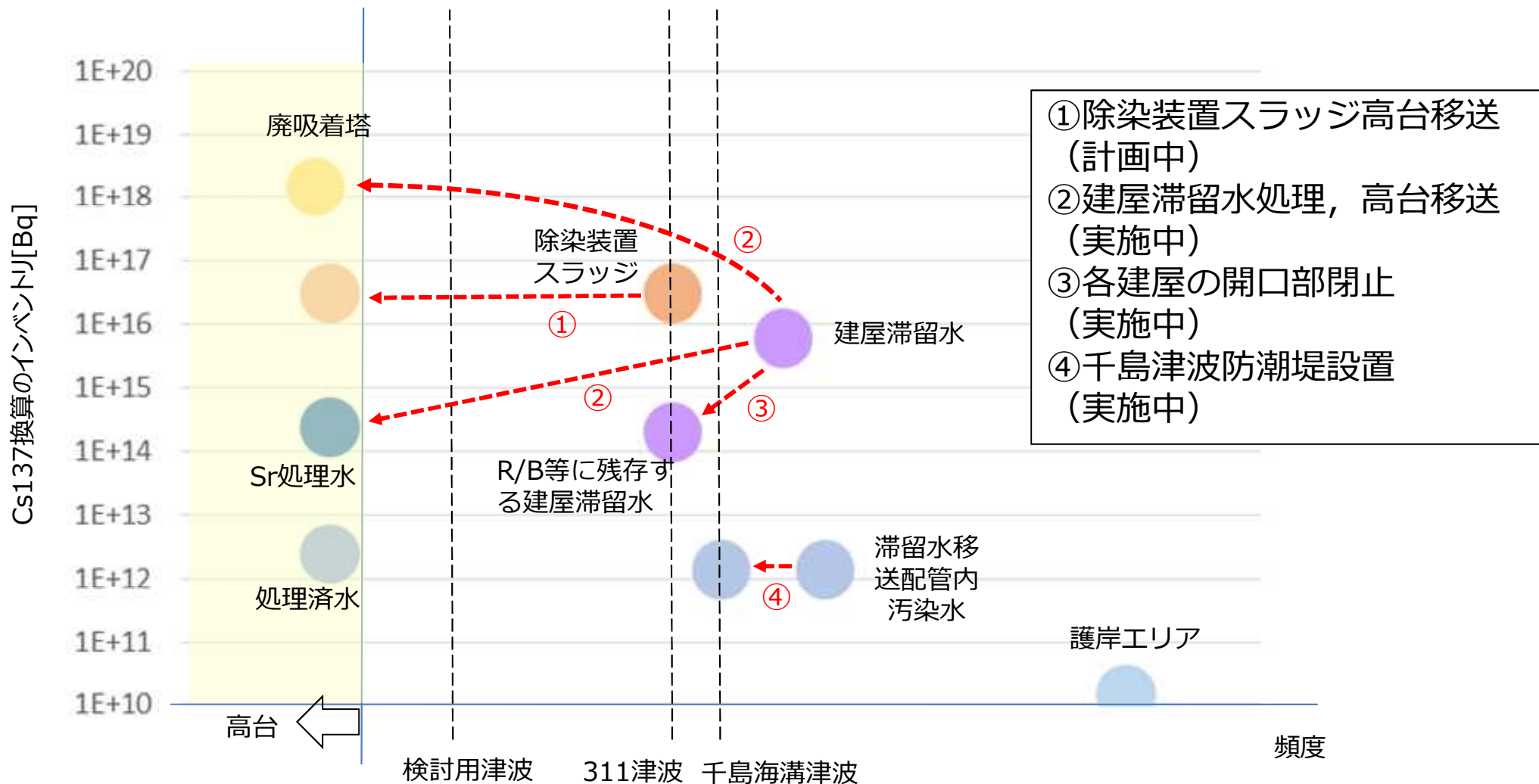


## ■ 安全上重要な対策および評価を、実現可能性等を考慮しつつ段階的に実施

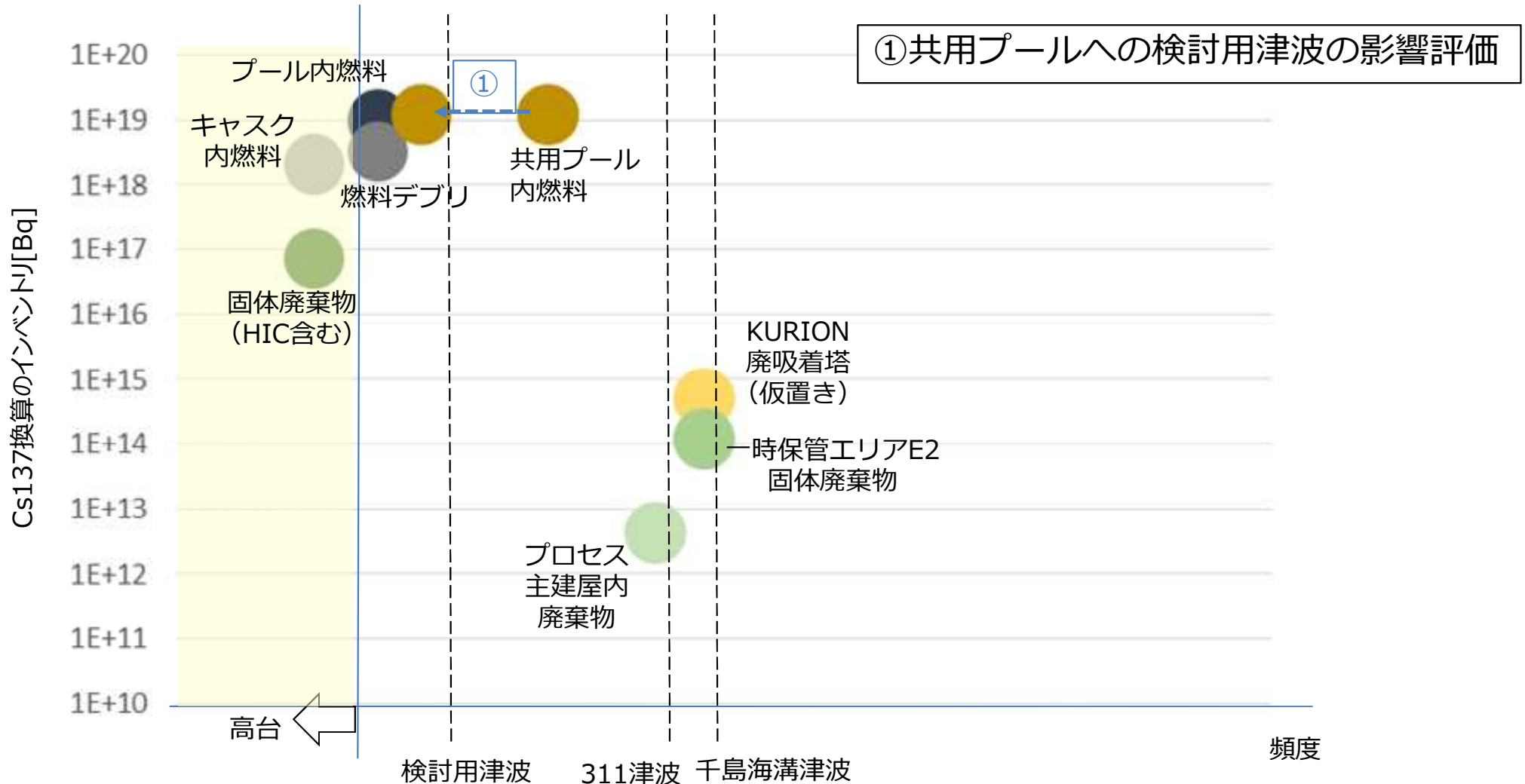


# 現状～津波対策後の津波リスク（水、スラッジ）

- 相対的にリスクの大きい除染装置スラッジ、建屋滞留水は実施中（計画中）の津波対策の進捗に伴いリスク低減が見込まれる



- リスク大の共用プールに対する評価により検討用津波に対する安全性を確認



# (参考) 確率論的津波水位評価

## 福島第一原子力発電所（港湾内旧検潮所）における検討用津波の年超過頻度

H26年の資料につきO.P.表記のまま

